



相ノ木っ子だより



令和3年度
11月号
上市町立
相ノ木小学校

苦勞を楽しもう～幸福は自分の手で～

「校長先生、見て。こんなにいっぱい採れたよ」

今春、6年生は学校から少し離れた所に土地を借り、広い畑を作ることになりました。みんなで背の高い雑草を切り開き、土を耕し、畝を立て、3種類のサツマイモを植えました。そして秋を迎え、精魂込めて育ててきたサツマイモを収穫しました。冒頭の言葉のように、6年生たちの努力は報われ、予想していた以上のたくさんのイモが採れました。また、6年生は学校敷地内の畑でもサツマイモを育てており、こちらは1年生と収穫し、仲よく分け合いました。その際まず1年生に選ばせるなど、優しさあふれる姿がとても素敵でした。

さて、収穫したサツマイモですが、種田さんから借りた焼き芋機を使い、6年生はまず焼き芋を堪能しました。味は格別だったことでしょう。それでも、サツマイモはまだまだあります。これまでは収穫した野菜をバザーで販売し、卒業に向けた活動の足しにしていたのですが、学習発表会・バザーは2年続けて中止となってしまいました。せっかくなたくさん採れたサツマイモを何とか販売できないものか模索する中、駅前のコンビニエンスストアに置いてもらえることになりました。置き場所を工夫したり、ポップを作ったりと6年生のがんばりのおかげか、何と2時間で完売となりました。また、別の畑で育てているネギも11月下旬に行われる公民館まつりに置かせてもらう予定です。6年生たちは、買ってもらう工夫をまたいろいろ考えることでしょう。

作物を一生懸命育て、販売の工夫を考える6年生の姿をずっと見てきて、汗水流して体感する学びや五感全てを使って感じ取る学び、つまり直接的で勤労的な体験活動のよさ・重要性を再確認しました。何かしら自分の結果を出そうと努力すること・苦勞することがとても大切であり、やはり今の学校教育において農業等の体験活動は重要な意味合いをもっていると考えます。そういった自分の手で体験する学習こそが、子供たちが見通しのきかない将来を切り拓いていくために大切な素地をつくり上げるのだと思います。

行動は必ずしも幸福をもたらさないかもしれないが、
行動のないところに幸福は生まれない。



これは、イギリスの政治家ディズレーリの言葉です。自分のねらいに向けて行動した場合、成功するとは限りませんし、失敗することもあります。でも、行動しなければ、その先にあるいろいろなよさを感じることなど到底できません。6年生が自らの手で育て収穫したサツマイモだからこそ、おいしさを一層感じたり、完売を喜んだりする幸福をしっかりと味わうことができたのです。そして今回、地域の方々と協力し、販売や流通等にも子供たちが関わったことで、地域を知るふさと学習、キャリア教育につながる学習にもなりました。6年生の自発的で根気強い行動力によって、自らの達成感・充足感が十分に得られ、さらに発展的な学びへと導かれることになったのでしょう。

放送作家でタレントでもあった永六輔は、著書「職人」で次の言葉を紹介しています。

苦勞なんて耐えるもんじゃない
苦勞は楽しむものです



苦勞するのは嫌だなど思っていると、たいへんさやつらさが増してきて、肉体的にも心理的にも耐えられなくなってしまいます。でも、苦勞することは自分の糧になるのだとプラスに考えれば、少しは楽になるでしょうし、さらにはそれ自体を楽しむことができるようになるかもしれません。努力や苦勞を楽しむようになることがきっと大事で、それが積極的な行動にもつながっていくのでしょう。

相ノ木っ子のみんな、苦勞を楽しもう。自分の体を使ってどんどん苦勞することで、幸福がいっぱいになってくるよ。



相ノ木っ子の真のお兄さん・お姉さんへ



「お勉強が楽しかった」「釣りでクジラをとったよ」「輪投げで100点だった」

就学時健診最後の面接で来入児に「今日は楽しかったですか」と尋ねると、「楽しかった」と元気に答え、その理由をうれしそうに話してくれました。小学校という、あまり慣れていない場所にも関わらず、来入児たちは元気に、楽しく過ごすことができたようです。これも、ていねいに5年生がお世話をしてくれたおかげです。マンツーマンで子供たちと接している5年生の姿は頼もしく、甲斐甲斐しく検診会場を回ったり、自分たちが作ったゲームと一緒に遊んであげたりと、とても微笑ましい光景でした。

毎年この時期に感じるのは、5年生という学年は、就学時健診のお世話を通してまず一段階ステップアップするということです。高学年とは言え、最高学年である6年生という頼る対象がいますから、学校行事等ではやはりぐいぐい引っ張っていく存在ではない5年生たち。でも、下級生にとっては優しいお兄さん、お姉さんたちでもあります。しかし、相手が来入児となると話は違ってきます。いつも以上にやさしく、明るい笑顔で接しなければいけません。おそらく今回も、5年生たちはそういった心構えや緊張感をもって臨んだことでしょう。そして、それをやり切ったことで、真の頼れる先輩に向けてのスタートを切ることができたのだと思います。

人間の持ち物のうちで一番素晴らしいものは、
笑顔なのだ。

これは、作家森搖子さんの著書「非常識の美学」の一節です。今回、5年生たちは笑顔で接することの素晴らしさを最も体感できたに違いありません。

また、短編小説「きよしこ」で、重松清さんは次のように書いています。

自分がおもしろいと思っていることを
相手もおもしろがってくれるというのは、
なんて素敵なことだろう。

来入児を楽しませてあげようと釣りや輪投げのゲームを考えた5年生たち。自分たちもおもしろいし、相手もきっと楽しんでくれるだろうと思ったから、それらを作って一緒に遊んだのでしょう。そして、来入児たちが楽しんでくれる姿を見て、きっと自身の喜びや達成感を十分に味わうことができたことと思います。就学時健診を通して、そういったたくさんの収穫を5年生たちは得たはずです。

健診途中で5年生のある子がこう言いました。「校長先生、恥ずかしい話ですけど、小会議室ってどこですか？」と。その子はあまり積極的にわたしに話しかけてくる子ではありません。場所が分からず、よほど困っていたのでしょう。わたしは、「あそこだよ」と答えながら、ちょっぴり感動していました。5年生という学年を意識していること、その立場で素直に恥じていること、それを言葉にしてきちんと尋ねていること、そのかしまった物言いや態度にその子の大きな成長を感じたからです。5年生たちが相ノ木っ子の真のお兄さん・お姉さんとなる日はもうすぐそこまで来ていることを確信し、とてもうれしくなりました。

行事予定（11月中旬～12月中旬）

11月23日（火）	勤労感謝の日	12月8日（水）	保護者懇談会1日目
24日（水）	夢の教室（5年）	9日（木）	保護者懇談会2日目
	ミニ駅伝大会	10日（金）	保護者懇談会3日目
25日（木）	中学校入学説明会（6年保護者）		
26日（金）	3年校外学習（魚津消防本部）		
27日（土）	公民館まつり（～28日（日））		

